

小田原市教育委員会臨時会会議録

1 日時 令和2年7月31日(金)午後7時00分～午後8時7分

場所 小田原市役所 3階 議会全員協議会室

2 出席者氏名

1番委員 栢 沼 行 雄 (教育長)

2番委員 和 田 重 宏 (教育長職務代理者)

3番委員 吉 田 眞 理

4番委員 森 本 浩 司

5番委員 益 田 麻衣子

3 説明員等氏名

教 育 部 長 北 村 洋 子

教育部副部長 飯 田 義 一

教育総務課長 下 澤 伸 也

教育指導課長 石 井 美佐子

教職員担当課長 高 田 秀 樹

指導主事(指導係長事務取扱) 中 山 晋

(事務局)

教育総務課副課長 府 川 雅 彦

教育総務課主査 菊 川 香 織

4 議事日程

日程第1 議案第29号 令和3年度使用中学校教科用図書(技術・家庭(技術分野・家庭分野)・英語・道徳・国語・書写)の採択について (教育指導課)

5 議事等の概要

(1) 教育長開会宣言

栢沼教育長…本日の出席者は5人で定足数に達しております。

(2) 会議録署名委員の決定…和田委員、吉田委員に決定

(3) 日程第1 議案第29号 令和3年度使用中学校教科用図書(技術・家庭(技術分野・家庭分野)・英語・道徳・国語・書写)の採択について (教育指導課)

○教育指導課長 それでは、御説明申し上げます。

7月28日の教育委員会定例会におきまして、令和3年度使用の中学校教科用図書16種目のうち4種目について、採択を終えたところでございます。本日は技術・家庭(技術分野、家庭分野)、英語、道徳、国語、書写の6種目につきまして、小田原市の生徒にとって最もふさわしい教科書を採択していただくこととなりますので、どうぞよろしく申し上げます。

説明は以上です。

(質疑・意見等なし)

○栢沼教育長 それでは、令和3年度使用中学校教科用図書の採択方法につきまして、改めて確認いたします。

各委員の独自の調査研究をもとに、小田原の子どもたちにとって最もふさわしいと考える教科書について、1社または2社について御意見を申し上げます。一通りの御意見をいただいた後、挙手による多数決を行い、採択します。過半数のものがあればそれを採択しますが、過半数となるものがない場合、再度上位2社または3社による多数決を行い、採択します。このような方法で進めてまいります。

本日は、技術・家庭（技術分野・家庭分野）・英語・道徳・国語・書写の6種目について採決を行います。

まず、技術分野の採択を行います。技術は、3社が発行しております。

委員の皆様から御意見を伺います。

○吉田委員 技術分野の教科書については、東京書籍を推したいと思います。新しい技術・家庭ということで、「未来を創るTechnology」として、生徒が生涯に渡って技術を工夫して、作り続ける、作るということに興味や社会の中で生きていくという視点が、とても強く出ているという気がしました。

そして、全体的に科学的な思考に基づく知識の習得というところがしっかり根底にあるというふうな教科書だと思います。

そして、巻末に「SDGsとTechnology」という特集もあり、小田原市が先行して主として取り組んでいるSDGsについてもわかりやすく述べているところが、小田原の子供のために、良いのではないかと思います。

また多彩な学習法を紹介していて、生徒同士がブレインストーミングやKJ法など、意見を言い合いながら、積み重ねていって理解していくというような人作りにも貢献できるのではないかと、また最適化という言葉を使って技術に見方、考え方について示しているところ、これも技術ということを生活の中で、これから未来を作っていく、とても大切な取組として、生徒たちの心に残り、そして知識や技術を増やしていく根底となるような価値観を形成していけるのではないかと考えました。

そのようなことで、東京書籍の教科書を私は推します。

○益田委員 技術科は、過去から現在までの技術の発展を知って、それを身近なものとして捉えて、どうやって未来に生かしていくかという視点で読ませていただきました。

その中で私も東京書籍が良いなと思いました。

その理由は、巻頭ページでは、技術の魅力がとても伝わるようになっておりまして、各章の最後にある「学習のまとめ」では、実生活との関連づけを考えさせる意図が感じられました。全体的に、過去現在を踏まえて、未来と繋がっていくという視点が感じられました。

またSDGsの特集が丁寧に書かれておりまして、小田原の政策にも繋がっているのも、小田原の子供たちに小田原の姿勢が伝えられるのではないかと思います。東京書籍を推したいと思います。

以上です。

○森本委員 私も、東京書籍を推したいと思います。

まず、編集としては、主体的に問題解決に取り組み、生涯にわたって技術を工夫し、想像し続けられる資質能力の育成を目指した編集になっています。その技術分野のガイダンスにおいて、技術の見方・考え方がまず「最適化の窓」として示されており、「最適化の窓」をのぞき、生活や社会における技術を見ることで、技術の工夫に気付くことができるように配慮されていました。

技術の最適化について、漫画で表現されていて、生徒にわかりやすく伝えられるように、工夫されているなと思いました。

それから、社会で活躍する技術者のメッセージを「技術の匠」「技術のとびら」で、また、エネルギーミックスなどの最新の技術の特集を多く取り上げておきまして、また巻末で「SDGsとTechnology」をわかりやすく特集して、生徒の興味関心を高めるように配慮されているところが印象に残りました。

以上から、私も東京書籍を推したいと思います。

○和田委員 技術は、安全で快適な生活を実現するための技術開発が、結果として住みやすい社会の実現になっているか、そういうのを問う時代になっていると思うのです。そういう視点で、東京書籍の12ページ、13ページの「技術分野のガイダンス」のところが、他の委員の方々もおっしゃっていましたが、技術の最適化って何だというようなことを漫画で説明していると、非常にとっつきやすい作りになっているなと思いました。

191ページに、最適化のことについてを「技術の最適化」で、「技術の光と影」ではエネルギー変換の技術には生活を豊かにする光の側面がある一方、環境への負荷や事故の危険性などの影の側面があることを忘れてはなりませんというような文言が明確に示されていて、今を生きる我々にとってはとっても大事なことだなと思いました。さらにそのページには、プラスの面の例、マイナスの面の例というのが明記されている。

そのようなことで、こういう視点から見て、東京書籍がいいと思いました。

以上です。

○栢沼教育長 私も東京書籍を推薦します。

3社から出てるわけですが、各社とも多くのページで割かれているのが、情報教育関連、それは簡単なプログラムの作成方法とか、工夫を凝らした説明がそれぞれ各社等もされている形が良かったかなと思っています。

そうした中で、東京書籍については、まずデジタル、あるいは情報通信技術、ICT、これについてしっかり解説がなされている。それから、情報モラルあるいは知的財産権など、インターネット社会に必要な基礎的な知識を説明している。

またその後、プログラミングについての学習を進めてもらうという形で、ネットリテラシーを重視した構成を取っている点です。

なお、プログラミングでは、東京書籍では伝言板システムなどを比較的簡易なプログラムから、農業のシステム、あるいはロボット掃除機こういったモデルなど、高度なものまでも紹介されていて、生徒が興味あるいは進度に応じた学習が進められるような内容、作りになっているという点で、私は東京書籍を推薦します。

(その他意見等なし)

○**栢沼教育長** 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

教育書籍	…	5票
教育図書	…	0票
開隆堂	…	0票

○**栢沼教育長** 採決の結果、「東京書籍」を令和3年度使用小田原市中学校技術分野の教科用図書として採択いたします。

○**栢沼教育長** 次に、家庭分野の採択を行います。家庭は、3社が発行しております。

委員の皆様から御意見を伺います。

○**和田委員** 家庭科ですが、自然界に生息する生き物が自立する条件というのは、どんな動物でも、自ら餌を取ることができて親から自立するっていう、これ人間もまた同じだと思うのですね。

そこで衣食住での基本的な技術知識を身に付けることを目指して教科書が作られているのは3社とも共通でした。

その中で違いが見られたのは共生です。

共生が、家庭とか社会との関係で処理してくるもので、具体的にはSDGsへの取組になると思います。

この視点で見たとき、開隆堂では、ガイダンスで「自立と共生」についてわかりやすく説明し、生活の見方、考え方で具体的に示し、持続可能な社会、すなわち国連SDGsを取りあげて、各章ごとに17項目のうちどれなのかを図で、明確に示しているところで、非常にわかりやすく作られているなど、そんなふうにして開隆堂が良いと思いました。

○**森本委員** 私は東京書籍が良いと思いました。

まず、3つの基本的な考え方で編集されておりまして、「家庭分野の学習の意義や大切さが伝わる豊かで楽しい教科書」、それから「実践的・体験的な学びで、生活で生きる知識及び技能が身に付く教科書」、「生活の中から課題を見つけ、主体的に解決していく力が身に付く教科書」という三つの基本的な考え方で編集されているのが良いと思いました。

写真やイラスト、図表などが、わかりやすく、実感を持って学べるビジュアルな資料がすごく充実しており、多彩な実習例を豊富に揃えてありました。生徒の学びの意欲を高めるように配慮してあると思いました。

題材の中で日本の伝統文化への理解を深め、後世に継承していきたくするような内容を充実させ、伝統文化のマークを付けてありました。

特に私がよくわかりやすいなと思ったのは、日本各地の郷土料理を各県ごとに写真で示してありまして、これも視覚的に生徒もわかりやすくして学びの意欲を高めるように、全体的に工夫されているなと思いました。

以上の点から、東京書籍を私は推したいと思います。

○益田委員 私も東京書籍を推薦したいと思います。

東京書籍は各章の導入で生活の営みに係る見方や考え方が例示してありまして、多角的な視点から考えたり、判断して決定したりして問題解決に取り組めるようになっていました。

また、家族や家庭の大切さを明示しながらも、多様性があるいいよってということをきちんと伝えているところも評価できるなと感じました。

それと、巻末の「防災・減災手帳」は、実生活に活用でき、命の大切さを伝えることができるなとも思いました。

それと、QRコードなのですが、QRコードを読み込むと関連する他教科の教材に飛ぶことができ子供たちの学習を深めることができるなと感じました。

以上です。

○吉田委員 私も東京書籍を推したいと思いました。

皆さんがおっしゃったことと同じ感想を持っているんですが、それ以外に家庭を営むということは、家事という技術的な面だけではなくて、家庭の重要性というのに気づいていくというのが大切かと思ひまして、益田委員がおっしゃるように多様性というのも、もちろん根底に置きながら、家庭で人は何を得ていくのだろうかというところを、どんなふうに扱っているかというところで教科書を見せていただきました。

家庭について、家庭の役割とか、基本的にこれをするのが家庭だということを押さえながら、東京書籍の場合は家族家庭の基本的な機能というふうに、中学生にふさわしく、少し抽象化し、汎用性があるような形で家庭について説明をしているということで、家庭の機能というのを抑えるのは、家庭運営にとっても大切だと考えています。家庭がある地域というところの関係もこれからの家族と地域ということを丁寧に扱ったり、地域での協働を目指してというところで、やはり社会の形成者として、生徒を育てていくというときに、家庭が中心にあり、地域に広がり、もっと大きい社会に広がっていくという、そういうように生活圏が広がっていくという、そこが目覚しい中学生にとって、家庭の機能を押さえ、地域との関係を押さえという、そういう大きなつかみがあるというところが素晴らしいというふうに思いました。

ですので、私は東京書籍を推したいと思います。

○栢沼教育長 家庭分野というのは、皆さんいくつか出ておりましたけれども、生活上の課題を設定して実践する学習、これが非常に重要だろう思っています。

そういった中で、具体的に食生活、被服の関係、さらには災害への備え、こういったテーマを取り上げている。これは、3社ともそうでした。

さらには、消費生活における基本的な知識や、中学生が巻き込まれそうな事案についても掲載し、注意を促して、そういった観点から見ますと、東京書籍がよろしいと思っています。

特に将来を見据えた職業か、あるいは勤労観の育成を目指してプロに聞くコーナー、こういったものを設けておりました、学びを人生とか、社会に生かそうとする。そういう学びに向かう力を育てるための工夫・配慮が大変作りとしてされている。そのように思いました。

また学びの視点がキャラクターの吹き出しということでも工夫がされていて、まさに生活の営みに関わる見方や考え方、こういったものを働かせた学習が生徒に身に付くように工夫されている。そのように捉えました。

そういうことから、東京書籍を推薦します。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 それぞれ皆さん調査研究をされ、絞り込んできた上での御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

教育書籍	…	4票
教育図書	…	0票
開隆堂	…	1票

○栢沼教育長 採決の結果、「東京書籍」を令和3年度使用小田原市中学校家庭分野の教科用図書として採択いたします。

○栢沼教育長 次に、英語の採択を行います。英語は、6社が発行しております。

委員の皆様から御意見を伺います。

○吉田委員 英語は6社あって、どの教科書も本当に素晴らしくできていて、とても迷ったのですけれども、新しいってというか、新鮮な感じで読めるということで、光村図書を私は選びました。

4人の子供たちが一貫して出てくるというところで、英語を学びながら、一緒に育っていくというような連続性がある。そんな感じがしました。

そして、これを学ぶ生徒さんたちが楽しみに学べるのではないかと。英語の時間、授業が楽しみになるのではないかと。また、役に立つ英語という意味で、日常生活に直結し、いろいろな場面を設定し、中学生が興味を持ちそうな英語の会話が身に付き、普段使ってみようかなと思うような展開になるのではないかと。英語に苦手意識を持たずに楽しみに授業を受けられるのではないかと。光村図書を推したいと思います。

○益田委員 英語は小学校から学習の繋がりを重視して生徒の興味を引く題材を使用し、英語の苦手意識を持たせないような構成をしているかどうかという点に着目しました。

その中で、私は東京書籍の「NEW HORIZON」のUnit 0から5では、音を中心に学ぶ小学校とのつながりが大切にされていました。Unitの最後の文法のページは、学ぶべき事柄が整理され、理解しやすいような説明になっていました。

また、学び方コーナーで英語の学習方法が示されていることで、子供たちが自分で学びを広げることができると感じました。

全体的なことですが、色使いが明るくて、ポップな感じが中学生に向いているのではないかと感じました。

もう1社ありまして、光村図書の「Here We Go!」ですね。1年次の導入で、小学校の英語の振り返りができ、楽しく復習できるようになっていました。

各章の導入にリスニングと想像を働かせるという、設問があり、細かくではなく、大まかに英語を捉える力を身に付けるように工夫がされているなどと思いました。

「Daily Life」というコーナーあったのですが、そこでは日常のリアルな場面設定がされていまして、英語を身近に感じることに繋がると思います。また、「Active Grammar」でそのユニットで学ぶべき文法がわかりやすくまとまっていた。

以上から東京書籍と光村図書を推したいと思います。一番は東京書籍です。

○森本委員 私は開隆堂を推したいと思います。

先ほどお話がありましたけれども、小学校から中学校の英語にスムーズに学習に入れるように入門期に受ける「Get Ready」や「PROGRAM 0」を配置して、小学校の英語の内容について、聞く・話す活動から入り、文字に関する内容や、音と文字の関係について扱っておりまして、丁寧かつスムーズに、中学校英語の学習に入るように配慮されていると感じました。

それから、各プログラムの構成が「とびら」に、これは目標の確認から「Scenes」「Think」「Retell」「Interact」の順番で構成されておりまして、英語の力を確実に身につけられるように工夫されていると感じました。

それから、4技能5領域を統合的に活用して行うパフォーマンス活動がプロジェクト1から8まで設定されておりまして3年間の到達目標を明確にしてあります。

1年生から段階的に発展する場面、内容で、自分自身が何ができるようになったかを意識できるような構造になっておりまして、非常に工夫されているなどと思いました。

以上の点から、私は開隆堂を推したいと思います。

○和田委員 英語は長い間ずっとテストのための文法だとかアクセントだとか英作文などが主流で、僕なんか10年間も学んできたのに何にも喋れない。そういう状況であったと思うのですよね。

でも、最近はそれが見直されて、特に最近はグローバル化した今は、コミュニケーション力をつけることを強く求められるようになってきたし、小学生から英語学習が行われるようになってその流れはいよいよ本格的になってきているんだろうなど、そんなふうに思います。

今回の教科書選びでは、これから生きていく子供たちのために話せる英語ってところで、見てみました。

そういう視点から言うと、開隆堂と三省堂と光村図書がその傾向がより顕著だったのかな。そんなふうに思います。

ただ、僕自身が子供たちをよくアメリカに連れて行く機会があるんですよ。そこで感じるのは、もちろん子供たちの間で個人差はあるんですけども、知っていても話せない傾向が強いですね。

特に英語教育の場合に、間違ってもいいから使うことによって、コミュニケーション力をつけていくっていう、これはすごく重要なポイントだと連れて行っていつも思うんですよ。

そういう意味では、買い物行くとか、そういうこう、突発的に反応しなくちゃいけないっていう場面もたくさん作るっていうことが、もう否応なしに間違ってもいいからされちゃっているいろいろな気持ちが起こしますよね。

そういうことで、こういう日本の子供のこの弱点を、意識した教科書作りっていうところから言うと、3社のうち、光村図書かなあと感じました。

そのようなことで光村図書を、推したいというふうに思います。

○栢沼教育長 まず英語そのものについては、視点として、今回から小学校で英語教育を受けた経験のある中学1年生になりますので、まずは小中学校の英語学習の連携、そういった配慮した構成かどうかを着目しています。

それから各社とも、スマートフォンをかざして読み取るだけで、関連サイトにアクセスできるQRコードを活用したり、音声素材の提供などにも力を入れたりするなど、聞く、それから話す、そういう部分の教科が各社とも目立っていたと思います。

そうした中で、私としては光村図書を推薦します。

まずは読みやすく、わくわく感がある、また面白さもあって、大変興味を持って外国語に親しめる教科書だなと思います。

また内容的には、レストランの注文あるいは電話での会話、空港でのアナウンス、あるいはラジオ番組の中継など、リアルな場面設定で世界を広げて、多様な見方・考え方を育てるという工夫がなされている点。

そして、3年間で4人の中心となる主人公による一貫した物語で構成されている点ですね。各学年での物語の題材が、身近な題材から平和あるいは環境問題、AIなど、様々な発達段階に考慮された内容構成となっている。そういった点で光村図書を推薦したいと思います。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	1票
開隆堂	…	1票
三省堂	…	0票
教育出版	…	0票

光村図書 … 3票
啓林館 … 0票

○栢沼教育長 採決の結果、「光村図書」を令和3年度使用小田原市中学校英語の教科用図書として採択いたします。

○栢沼教育長 次に、道徳の採択を行います。道徳は、7社が発行しております。

委員の皆様からご意見を伺います。

○和田委員 道徳は確か2年前にも採択したと思うのです。その時も強く感じたのですが、国語と違うのは、明確にしなくちゃいけない教科ではないかと思います。物語を読んで、いわゆる架空の世界を論じたり考えたりするだけでは、僕は駄目なんじゃないかな、この教科の目的を達していないんじゃないかと思っていまして、現在進行形の生活に結びつける学習というのが、僕は道徳であるべきだという持論を持っています。

今日も実は自分の山の中の仕事場からここに来るときに、粗大ゴミの不法投棄があるんですよ。目につくんですよ。これをもしね、ペーパーテストだとか教室とかの場面で、山の中にゴミを捨てるのはいけないことですか良いことですかって尋ねたら、多分捨てている人ですら、これは悪いことだと答えると思うんですよ。それで丸にしていくんじゃ、道徳の意味はないというふうに思っています。

これは前回にもそのような同じようなことを申し上げたと思うんですが、こういう視点で各社の教材を見たとき、最もよくそのことを提示していたのは、2年生の箱根駅伝なんですね。青山学院大学が連覇をしていたときだったんで、その次の年は負けたんですよ。東海大学が優勝しました。でも、またその次の年はまた挽回しましたよね。

そのときに、その連覇を実現するために何が大事なのかと言ったら日常生活の取組なのだろうということ言って、その生活の中で靴を揃えとか掃除をやるとか、きちんと返事をするとかっていうね、非常に具体的なことを示しているんですね。

僕は道徳っていうのは、観念論ではなくて、そういう生活の中の具体的なものだと思う。そういう気持ちが非常に強いですね。

そういう意味では、今回もやはり光村図書がいいのかなと、そんなふうに感じました。

以上です。

○森本委員 日本教科書が印象に残りました。

価値感や各々の生活様式が多様化した現代に合わせて、いじめの問題、情報のモラル、LGBTの生命倫理など、幅広い教材が掲載されておりまして、各学年の巻頭に道徳科って何を学ぶのというページがありまして、学ぶ意味を確認した上で、授業に臨むことができるように配慮されていました。

生命の尊重、生命科学に関しての教材では、現在の社会を取り巻く病や老い、生命の論理などの問題に対しても、他人ごとではなくて、自分の家族や身の回りの人がもし同じ状況になったらと自分事として考え、さまざまな視点から多角的に議論しやすいように、問いを投げかけているように工夫されておりまして。

それと、医療・生命・科学の分野で活躍する人物の生き方を通じて、失敗や挫折にめげることなく、目標を持って自分の良さを生かすことを伝えている教材があり、特に3年生の、ノーベル賞とられました山中伸弥教授の教材が印象に残りました。

最後に、小田原市のゆかりの偉人、二宮金次郎の「天地と共に」を中学生最後の教材として取り上げていました。

小田原市の生徒が、3年間の道徳の集大成としてふさわしい教材であると感じます。そのようなことから、私は日本教科書を推したいと思います。

○益田委員 道徳は、先ほど和田委員がおっしゃいましたとおり、国語と違って読み取るだけではなくて、自ら自分のことと捉えて、考え、実行していくかということを考えられるような教材が良いと思ひまして、見させていただきました。

その中で私は、日本文教出版が良いなと思ひました。

「プラットフォーム」というコーナーがありまして、いじめとかSNS、アンガーマネジメントとか震災などが扱われておりまして、より具体的なイメージを持ちやすいと感じました。

また、最近とても話題になっております、情報モラルにつきまして、それぞれの学年で、それぞれの段階にある子供たちが感情移入しやすいような題材を取り上げられていました。また2年生のいじめの題材で、いじめの内容とかそういうことだけではなくて、法律のことも触れられていて、いじめは犯罪であるんだよってという姿勢を打ち出している点が良いなと思ひました。

以上のことから、日本文教出版を推したいと思ひます。

○吉田委員 考え方としては、共感するんですけども、違う出版社で東京書籍を選びました。教科書を見ていて、学びを重ねていくうちに、生活を整えるような暮らしぶりに繋がっていくのではないかなと読ませていただきました。

いじめの扱いとか、それから生命倫理の扱いとか、そういうところも多面的に捉えられるように工夫されていまして、3年間学ぶ中で、同じ項目をそれぞれ1年生は1年生で、2年生は2年生で、3年生は3年生の生活経験や歳を重ねて育ったところに、また、時期の成長に合ったような使い方をして、積みかけていくという形で、3年間を構造的に捉えて、道徳教育を考えているのかなと思われて、同じ教科書で3年間学ぶことによって、心の成長が期待できるのではないかなと思ひました。

私は東京書籍を推したいと思ひます。

○栢沼教育長 私は東京書籍を推します。まず生命尊重、それからいじめ問題を扱う教材では、広く考えられていて、取り扱う時期にも配慮がされている。また、ユニット化がされていて、子供たちが、多面的・多角的に考えられるような工夫がされている点、また、巻末に「心情円」やホワイトボードの付録もありまして、自分や他の人の考えが可視化されるような工夫がされている点、また、道徳で一番大事なのは、自分事として主体的に考えたり思ったりしたこと、これを記述する欄、東京書籍では「つぶやき」という欄がございますが、各教材の下部にそれぞれ設定されていて、まさに「考える道徳」に繋がる内容構成になっている点です。

また地元小田原ということであれば、相模人形芝居を取り上げているので私個人的には嬉しかったです。そういった面で、道徳的行為に関する体験的な学習というのは、先ほど和田委員もおっしゃっていましたが、もしあのときに戻れるならば、こういったコーナーもありまして、役割分担したり、話し合ったりする、そういった体験的な学習を取り上げる「ACTION!」、こういったものも設定されていて、非常に扱いやすい教科書だったと思いました。

以上です。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	2票
教育出版	…	0票
光村図書	…	1票
日本文教出版	…	1票
学研教育みらい	…	0票
廣済堂あかつき	…	0票
日本教科書	…	1票

○栢沼教育長 2票だった「東京書籍」を候補として残し、1票だった「光村図書」「日本文教出版」「日本教科書」の3社で再度採決を行い、他の候補を決めます。(1社ずつ、挙手による多数決)

光村図書	…	1票
日本文教出版	…	3票
日本教科書	…	1票

○栢沼教育長 それでは、最初に2票入った「東京書籍」と今採決した「日本文教出版」の2社で再度採決を行いたいと思います。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	2票
日本文教出版	…	3票

○栢沼教育長 採決の結果、「日本文教出版」を令和3年度使用小田原市中学校道徳の教科用図書として採択いたします。

○**栢沼教育長** 次に、国語の採択を行います。国語は、4社が発行しております。

委員の皆様から御意見を伺います。

○**吉田委員** 国語につきましては、光村図書が良いなと思いました。

1年生から3年生までの習熟段階を踏まえた作品の選び方も良いと思いましたし、主体的・対話的な学習活動というところで、「聞き上手になろう」とか、「助言を自分の文章に生かそう」など、いろいろな教材が配置されています。しかも、系統性があるということです。教材の配置が良いというのは特徴かなと思いました。

また、「見通し」とか、「活用」とかを重視している点で、各教材全て一連の流れに沿って用意されているというふうに思いました。

繰り返し学びながら、成長していけるというところが、教科書全体にみられますので、光村図書を推したいと思います。

○**益田委員** 国語力というのは、全教科に影響するため、語彙力や文章の読解力を身につける、またさらに読書は一生楽しめるものですので、読書への興味も繋げられるような工夫があるかどうかという点に着目しました。

そこで私は光村図書を推したいと思います。

光村図書は各教材全てに「見通しを持つ」から「振り返る」までの一連の流れが明示されていて、学習過程の流れをつかむことで、確実な力がつくと思いました。

また情報に関する単元が3学年とも設定されていて、池上彰さんなどを起用して中学生の興味を引くような題材がありました。メディアリテラシーを含めた情報活用能力や、思考力の向上が図られていました。

日本の古典の教材もとても大切だと思っていて、その教材はスタンダードな中学生らしい題材が取り上げられておりまして、導入にはカラーイラストや資料が用意されていて、興味が広がるようになっていました。

また読書への興味という点で、教材末にある「広がる読書」のコーナーや、「本の世界をひろげるよう」などに多くの本が紹介されていました。

「読書生活を豊かに」では、小説の一部公開されていて、それを読むとその後も読んでみたいという意欲を掻き立てられるような工夫もされているなと思いました。

以上のことから、光村図書を推したいと思います。

○**森本委員** 私は三省堂を推したいと思います。

言葉で考える力、言葉で伝え合う力、言葉で未来を作る力をつけるのをコンセプトに編集されておりました。各教材で「語彙を豊かに」を設定して、教材の言葉に関連する多様な語句を取り上げたり、学習活動に即した表現例を提示したりするなど、語彙力を高める工夫がされていると思いました。

それとあと、グループディスカッションや、データやグラフの情報の読み取りの教材で、他者との交流や共有のプロセスが設けてありまして、物の見方を広げて、課題解決の力を伸ばす構成になっているのが印象に残りました。

以上のことから、私は三省堂を推したいと思います。

○和田委員 国語は、読み・書き・話すっていうのは社会で暮らす人間にとって基本、大事なことで、その方法と手段は時代とともに変わってきていると思うんですね。そういう点では各社ともそれぞれ工夫が見られました。

そういう中で、東京書籍も様々読書へのいざないの工夫が見られていいなっていうふうに思いました。

ただですね、光村図書の教科書を見ると、他の社には見られない、時代を先取りするようなQRコードっていうのが随所にあるんですね。時代とともに方法手段が変わっていかなくちゃいけないっていうようなことから言うと、確かにQRコードは検定の項目ではないんです。だけど、そこを先読みして、それを随所に配置しているっていうのは、非常に画期的な教科書作りをしているなっていうふうに思いました。

特に、1年の134ページのところの「学習の窓」では、事実と意見の対比を行って、言葉を広げるっていう、語彙の広がりだとかそういうものも意識したページになっていてとってもいいなっていうふうに思いました。特に面白いなと思ったのは、84ページと89ページにわたって3人の作品を紹介した後、続きはこちらっていうのがあるんですよ。これは、教科書で物語を完結するのではなくて、その余韻を残して次に繋げるっていうね、そういうことに挑戦していて、これは図書館を利用するという意味においても、とってもいい編集姿勢だなあというふうに思って、光村図書を推します。

以上です。

○栢沼教育長 私は光村図書を推薦します。

印象として、指導がしやすく、わかりやすい教科書だと思っています。思考を深める広げる整理するそういう観点を基に、マッピング、あるいはブレインストーミング、具体的な方法を例示してありまして、展開の方法なども解説しております。

聞き方の工夫として、相槌を打つ、あるいは聞いたことを繰り返すなどと具体的な例を紹介しています。討論の動画が見られる。先ほどもありましたQRコードも載せてある。こういった取組には、一方通行型の授業を改善して、生徒が考えて、対話する学びに繋げる狙いがある。そういう教科書かなと思っています。まさに指導要領の目指す方向性に沿った教科書であると捉えております。

また第2学年の114ページだったと思いますが、「表現を工夫して書こう」というところに、手紙の例で小田原市が紹介されている点で良かったかなと思います。

小田原の教科書として光村図書を推薦します。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0票
三省堂	…	1票

教育出版 … 0票
光村図書 … 4票

○栢沼教育長 採決の結果、「光村図書」を令和3年度使用小田原市中学校国語の教科用図書として採択いたします。

○栢沼教育長 次に書写の採択を行います。書写は、4社が発行しております。

委員の皆様から御意見を伺います。

○和田委員 イメージとしては、書写イコール習字かなっていうふうに思いが強いです。

各教科書会社を見ると、東京書籍では、メモの活用やパンフレット作りなど、三省堂では新聞作りだとか、教育出版では、ポスター作り、レポート作りなど、日常生活に実際に役立つというものが、非常に取り上げられていて、そういう視点から言うと、国語のときにも報告申し上げたんですけど、光村図書の場合に、QRコードが随所にあるんですね。

特に、こういう実技的なものは、動画で示してくれるっていうようなことは非常に効果的なのではないかというふうに思いました。

各学年で、見開きのコラムがあって、「文字の歴史を探る」、2年では「物語を千年書き継ぐ」とか、3年では、「UD（ユニバーサルデザイン）書体って何だろう」というようなことがあって、これもとっても見やすくわかりやすく、説明されていたなと思います。

それから、教材ごとに、目標と学習の振り返りっていうのが提示されていて、非常に学びやすいようになっていたと思いました。

それから最後に、そういう日常に役に立っているものが後半にまとめているので、使い勝手がいいのではないかと思いました。例えば、手紙の書き方は縦書き、横書き、同じ封筒の書き方とかね、非常に丁寧にはがきの書き方も、普通のはがきと往復はがきの書き方だとかそれがまとめて後半にのっているっていうのは、使いやすさから言って良かったなと思いました。

以上です。

○森本委員 私は三省堂を推したいと思います。

まず学習の見通しを持って主体的に学習を進め、次の学びへの意欲が得られるように構成するとともに、日常生活、社会生活の中で活用できる書き方のポイントが一目でわかるように構成されていると思います。

基礎編では、姿勢や用具の扱い方などを丁寧に解説してありまして、「書き方を学ぼう」では、学習のポイントを明確に提示し、そして「振り返ろう」、「書いて身につけよう」で、実践的な力がつくように工夫されていました。

特に基礎編では、動画資料として、デジタルコンテンツを提供して、硬筆・毛筆の姿勢や持ち方、用具の使い方などをわかりやすく確認できるように配慮されていました。

そういった点から。私は三省堂を推したいと思います。

○益田委員 私は、光村図書を推したいと思います。

先ほど和田委員がおっしゃったように、書くときに教材ごとのページの上にQRコードがあって読み込むと、毛筆の筆順がすぐにわかるようになっていました。また「全国文字マップ」では、身の周りにある文字を取り上げていたり、ユニバーサルデザインや、源氏物語の年表などの読んでいて楽しいコラムなどもあったので、子供たちが文字に対する興味を持つのではないかと思います。光村図書を推したいと思います。

○吉田委員 私も光村図書を推したいと思います。

和田委員がおっしゃったように、日常生活に生きるような書写の教科書だということで見ました。

そして、やはり4の「日常に役立つ書式」というところに手紙やメール、葉書、履歴書、送り状など、生活の中で書写を役立てて、丁寧にそういうものも、書くというような意識づけとか、あと教養、教育的な部分も含まれていてそこを一つの章にまとめているというところが、生徒にはわかりやすいと思いますし、この教科書は、ずっと長く手元に置いて、参照しながら、学びを生かしていけるのではないかと思います。また、説明も詳しいですし、学ぶ時に各章に目標が明示されていて、文字を漫然と書くのではなくて、ここが大切ということ意識しながら、書いていくということで、文字力も上がるのではないかと思います。

そういう理由で光村図書を推したいと思います。

○栢沼教育長 私も光村図書を推したいと思います。

生活に役立つ観点、そういうところから見ますと、手紙あるいは送り状の書き方など学校での生活、あるいは日常生活でも用いる例、そういった説明が大変詳しく掲載されていて、そのポイントが日常に役立つ書式に示されている点です。一番良いなと思ったのが、毛筆と硬筆との関連についてですけれども、毛筆の学習を用いて、硬筆で切り替える学習活動。これが書写ブロックに設定されていて、この点が非常に良かったかなと思っています。

先ほど来、委員から出ておりますが、全教材に自己評価の観点である目標と振り返り、これがしっかりと明示されていて、学習の展開を考えよう、確かめよう、生かそう、そういう流れで一目で分かるようにすることによって子供たちが主体的に学習に臨むことができるよう工夫されている。そういう教科書の作りになっている点です。

以上です。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0票
三省堂	…	1票
教育出版	…	0票
光村図書	…	4票

○栢沼教育長 採決の結果、「光村図書」を令和3年度使用小田原市中学校書写の教科用図書として採択いたします。

○栢沼教育長 本日採択されました教科用図書について確認します。

技 術	…	東京書籍
家 庭	…	東京書籍
英 語	…	光村図書
道 徳	…	日本文教出版
国 語	…	光村図書
書 写	…	光村図書

○栢沼教育長 以上でよろしいでしょうか。

(意見等なし)

○栢沼教育長 残りの6種目の採択については、8月4日の教育委員会臨時会にて行います。

以上で、令和3年度使用中学校教科用図書（技術・家庭（技術分野・家庭分野）・英語・道徳・国語・書写）の採択についてを終わります。

6 教育長閉会宣言

令和2年8月28日

教 育 長

署名委員（和田委員）

署名委員（吉田委員）